

# ORIOBI

' 21.4.6(tsu)-9(fri)  
at. FUSE gallery space



## 日本の伝統美を帯を通じて伝える

たんすの中で眠っているような使われなくなった帯を、ハサミを入れずに折ったりひねったり、丸めたり。着物帯一本オリジナルデザインの装飾品とする「ORIOBI」(<https://www.oriobi.jp>)。FUSE メンバー白幡磨美さんが活動する「ORIOBI」の作品がギャラリースペースにて展示された。

着物帯は古くから職人が高め守ってきた伝統技術により紡ぎ出された芸術作品。とはいえ、現代の日本では着物はあまり着られることがなく、それに伴い帯自体を使う機会が減少した。今では、たんすの奥には約4億本もの帯が眠っているとされているから驚きだ。しかし、家庭に眠る帯は、祖母から母へ、母から娘へと受け継がれていたり、大切な人からの贈り物であったり、そのひとつひとつに人の想いや歴史・物語を持っているもの。だからこそサステナブルが提唱されている今、「伝統技術を再認識し利用していきたい。」そんな想いから発案されたのが、この「ORIOBI」だ。ハサミを使うことなく一本の帯をまるで折り紙のように操り、変幻自在に形を変える。その姿はまるで生き物のようで、帯の新しい価値観が感じられた。

4月6日(火)には、FUSEメンバーを対象にワークショップも開催。参加者の皆さんも楽しみながら、帯を身近に感じ新しい価値観を体験するとともに、参加者同士の交流も図られ、充実した時間となった。次回は「着物を着ながらワークショップやお茶会をしよう！」など新たなコミュニティが生まれるかも！



 **FUSE**